

日本人は短縮形がお好き？

米アップル社のiPhone4S発表で話題沸騰のスマートフォン。巷では「スマホ」なんて略して呼ばれます。このスマホ、もはや電話ではなく、通話機能付きのパソコン。おや？パソコンも、パーソナルコンピュータの略ですね。スマホもパソコンも、決してアメリカでは通じない日本だけの短縮形です。因みに、あちらではパソコンをPC（ピーシー）と略します。このように、長い言葉を短く略してしまうことはよくありますが、アルファベットの「頭文字」に相当するものがない日本語では、その短縮形を聞いただけでは「何のこと？」っていうものが、音楽の世界でも多々あります。

例えばオーケストラを略して「オケ」。カラオケの「オケ」です。「空桶」だと思っていた人はいませんか。あれは、オーケストラがカラだからカラオケ。

オケの名前も略されます。NHK交響楽団は「N響」、広島交響楽団は「広響」、日本フィルハーモニー交響楽団は「ニッピル（日フィル）」です。我が府中シティオーケストラも、「シティオケ」あるいは「シティ」と呼んでもらってかまいません。

それから、コンマス。これはコンサートマスター（第1バイオリンの一番前客席より座っている奏者）の略で、ごく普通に使われます。

楽器も略します。第1バイオリンはファーストバイオリンだから「ストバイ」。何だか、博多で国鉄がストライキしてみたいですね。「いけんね、今日は国鉄ばストばい！」第2バイオリンは「セコバイ」。何がセコって？いえいえ、セカンド（第2）の略です。クラリネットは「クラ」って略されますが、明るいい人も多いです。トロンボーンとチューバは金管楽器の下支えに欠かせませんが、トロチューなんてまとめて略され、かなり脂っこい感じがします。

まだまだ、あります。モーツァルトが人生最後に残した「レクイエム（鎮魂歌）」は、宗教合唱曲の荘厳さに反して「モツレク」と呼ばれます。鍋でもつついている感じ。「第九」を「大工」とかけた年末のCMもありましたが、ベートーヴェンの「交響曲第9番」のことです。9番目の交響曲は他の作曲家にもありますが、「第九」といえば合唱付きです。ドヴォルザークの交響曲第9番は「新世界」と呼ばれますが、靈感商法の団体ではありません。この曲には「新

世界より」というタイトルがあり、「より」をとって呼ばれます。

タイトルのない交響曲もナンバリングされているので、番号を使って略されます。例えば、今回の春まちコンサートで演奏予定のブラームスの交響曲第1番は「ブラ1」…って何だか恥ずかしい？メンデルスゾーンのバイオリンコンチェルトは「メンコン」。

また、オケでは「トラ」を呼ぶことがしばしばあります。これが、時々噛みついて…ではなく、この「トラ」、「エキストラ」の略。つまり、団員だけでは足りない部分に頼んで来てもらう演奏者のことです。

とまあ、挙げればきりがありません。

短縮形は紙面の節約に有効ですが、多用されると嫌味に感じた経験を、皆さんもされたことがあるのではありませんか？電気店で横文字を並べて説明されてチンプンカンプンのあの感じです。ですから、仲間内だけならともかく、一般的には短縮形の濫用は避けるべきだと思っているのはステマネだけではないはずです。あ、ステマネはステージマネージャーの略でした。失敬。